

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4151080043		
法人名	医療法人 源勇会		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字早津江263番地		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成30年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 29年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の医療機関があり、24時間医師や看護師との連絡が取れる環境にて、病気の早期発見や早期治療に繋ぐことができ、利用者・ご家族共に安心できる環境となっている。入居者のできる事について工夫をし、ホームの中での役割を持ち、充実した暮らしとなるよう日々取り組んでいる。計画作成においては、カンファレンス開催前には、全職員で問題意識を持ち、プランの実行についてや、今後の取り組みについて意見を書きだしカンファ開催時に活用している。御家族には、面会時などに近況や計画についてお伝えしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、佐賀市川副町の東部に位置し、筑後川をはさんで隣の福岡県大川市と隣接した場所にある。周囲は、田園地帯がひろがり、穏やかな環境であることに加え、近くにはコンビニエンスストアや銀行など人々の生活の息吹が感じられる地域でもある。同じ敷地には、併設の医療機関があり、通院や救急時の対応が迅速に行え、入居者や家族が安心できる環境が整っている。近年、地区の自治会との交流が進み、今後、防災訓練などへの協力やボランティアの受け入れなどを通して、交流を進めていくことが期待されるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	Aユニット	Bユニット		Aユニット	Bユニット
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念を週ごとに唱和し、実践に向けて取り組んでいるが、全職員が念頭におき動いているかは分からない。日常のケアに繋がっていかれば良いと思っている。	5つの理念を週ごとに唱和し、実践に向けて取り組んでいるが、全職員が念頭におき動いているかは分からない。日常のケアに繋がっていかれば良いと思っている。	理念は、事務所に掲示し、5つある理念を週ごとに一つずつ唱和して、理念の実践に努め、支援の際の指針となるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の際には、地域の自治会長・区長・民生委員の方々に協力頂いている。地区の行事への参加は、年一回の秋祭りのみで日常的とはいかない。	運営推進会議の際には、地域の自治会長・区長・民生委員の方々に協力頂いている。地区の行事への参加は、年一回の秋祭りのみで日常的とはいかない。	高齢者サロンからボランティアを受け入れ、歌やゲームを行ってもらったり、地区の祭りなどに参加して、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域の自治会長・区長・民生委員を通じて、ホームの取り組みについて伝えている。地域住民に対しての発信にはなっていない。	運営推進会議の中で、地域の自治会長・区長・民生委員を通じて、ホームの取り組みについて伝えている。地域住民に対しての発信にはなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日々の暮らしや、サービス計画作成・介護保険について等、入居者の暮らしにかかわる事について報告を行い、ホームについて知って頂けるように努めている。	日々の暮らしや、サービス計画作成・介護保険について等、入居者の暮らしにかかわる事について報告を行い、ホームについて知って頂けるように努めている。	定期的に会議を行っており、案内状を出して参加を呼びかけ、家族や地域の方の参加を得ている。会議録は整備され、参加できない家族に対して、月の便りと合わせて送付し、共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	おたっしや本舗・民生委員・自治会長・区長等より、運営推進会議を通じて情報を伝え協力関係を築けるように努めている	おたっしや本舗・民生委員・自治会長・区長等より、運営推進会議を通じて情報を伝え協力関係を築けるように努めている	手続きなどわからない時は、おたっしや本舗に相談している。何かあったときは担当者と連携が取れる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年一回勉強会を開催し周知に向け取り組んでいる。玄関については、施錠は行っていないが、ご家族に、ホームの現状について伝え、手動での対応を行い、教協力を求めている。	年一回勉強会を開催し周知に向け取り組んでいる。玄関については、施錠は行っていないが、ご家族に、ホームの現状について伝え、手動での対応を行い、教協力を求めている。	身体拘束に関する勉強会などで、職員が日々の支援について振り返る機会を設けている。センサーマットの利用について、職員間で必要性や安全性について意見交換を行い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回勉強会を開催し周知を図り、怪我等については、原因を分析し対策を講じご家族に対して怪我の状況についてお知らせ行っている。	年一回勉強会を開催し周知を図り、怪我等については、原因を分析し対策を講じご家族に対して怪我の状況についてお知らせ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一回は勉強会を開催し学ぶ機会を得ている。	年に一回は勉強会を開催し学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、今後の生活に関する不安や疑問については、十分な説明を心掛け、要望があれば、支援可能か検討を行い、説明・理解・納得されるように努めている。	契約の際には、今後の生活に関する不安や疑問については、十分な説明を心掛け、要望があれば、支援可能か検討を行い、説明・理解・納得されるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置は行っている。密な関係となれるよう、要望・意見については支援可能か検討行っている。面会時には、近況を伝えている。	意見箱の設置は行っている。密な関係となれるよう、要望・意見については支援可能か検討行っている。面会時には、近況を伝えている。	家族が面会に来られた時は、職員が、要望等を聞き取っている。可能なことはすぐ実践に生かすように努め、出来ないことは、話し合いをして対応するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に関しての意見については、検討し可能な事については反映できているが、運営に関しては、反映できていない事もある。	業務に関しての意見については、検討し可能な事については反映できているが、運営に関しては、反映できていない事もある。	管理者は、運営に関する意見を聞き取るように努めている。直接言えない職員からは、個別に聞き取り、意見を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の努力や実績勤務状況に応じた給与水準や職場環境の整備に努められている	各個人の努力や実績勤務状況に応じた給与水準や職場環境の整備に努められている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内はされているので機会の確保は出来ている。部署内での教育については、現状努力はしているが難しい状況	研修の案内はされているので機会の確保は出来ている。部署内での教育については、現状努力はしているが難しい状況		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加時には、交流の機会があり情報交換あるが、職員全体では取り組めていない	研修会参加時には、交流の機会があり情報交換あるが、職員全体では取り組めていない		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごとや不安な事要望に耳を傾け、安心した暮らしとなる様な関係づくりに努めている。	困りごとや不安な事要望に耳を傾け、安心した暮らしとなる様な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約やサービス計画作成意向確認時や面会の折に、近況など伝え不安や要望に耳を傾け、支援できる関係づくりに努めている。	契約やサービス計画作成意向確認時や面会の折に、近況など伝え不安や要望に耳を傾け、支援できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の困りごとや本人の必要とする支援について、聞き取り、ホームで対応可能な選択肢の提示し、今最善と思われるサービスを提供できるよう努めている	家族の困りごとや本人の必要とする支援について、聞き取り、ホームで対応可能な選択肢の提示し、今最善と思われるサービスを提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の役割や存在感を意識し、感謝の気持ちを伝えている。職員は、主体は利用者と感じてもらえる様努めている	個々の役割や存在感を意識し、感謝の気持ちを伝えている。職員は、主体は利用者と感じてもらえる様努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告など連絡や面会時の対話を大切にし、本人・家族の関係性に理解し共に支えていく関係づくりに努めている	近況報告など連絡や面会時の対話を大切にし、本人・家族の関係性に理解し共に支えていく関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所について聞き取り外出支援へつなげたり、会話によって昔の事を引きだす事で大切にしている。入居前のサービス機関への訪問(法人内)等で途切れない様努めている	馴染みの場所について聞き取り外出支援へつなげたり、会話によって昔の事を引きだす事で大切にしている。入居前のサービス機関への訪問(法人内)等で途切れない様努めている	馴染みの方が定期的に来られる入居者がおられる。職員は、以前の付き合いについて尋ねたり、面会しやすい環境を整えて、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や日々の様子に応じて利用者同士の関わり出来る様支援に努めている。	個々の性格や日々の様子に応じて利用者同士の関わり出来る様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	故人の家族から手紙が届いたり、地域で会える事もあり、これまでの関係性において、相談や支援ができるよう努めている。	故人の家族から手紙が届いたり、地域で会える事もあり、これまでの関係性において、相談や支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしから思いを汲み取り暮らす事が出来る様努めている	日々の暮らしから思いを汲み取り暮らす事が出来る様努めている	入浴などのゆっくりとした環境で、本人の思いを聞き取っている。困難な場合は、日ごろの様子から判断し、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好きな物・好きな事(趣味)を続けて行けるよう努めている。	好きな物・好きな事(趣味)を続けて行けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやカンファレンス等、個々の心身の様子に応じた過ごし方を把握し情報共有に努めている。	アセスメントやカンファレンス等、個々の心身の様子に応じた過ごし方を把握し情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人の意向を尊重した計画作成が出来る様に努め、カンファレンスにおいては、全職員が意見を書きだし、現状に応じた介護計画の作成と情報の共有に努めている	家族・本人の意向を尊重した計画作成が出来る様に努め、カンファレンスにおいては、全職員が意見を書きだし、現状に応じた介護計画の作成と情報の共有に努めている	職員の意見を聞きながら、定期的にカンファレンスを実施し、本人・家族の意向を確認しながら計画を立てて実践している。かかりつけ医の意見も計画に反映させ、記録は整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践状況については、チェック行い、気づきは個別記録に記入し、カンファ意見表や申し送り等で共有し、必要あれば見直しに活かしている。	日々のケアの実践状況については、チェック行い、気づきは個別記録に記入し、カンファ意見表や申し送り等で共有し、必要あれば見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で取り組んでいる。	可能な範囲で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭への参加や隣接する施設の行事への参加や作品展見学、法人の納涼祭参加など、範囲は狭いが地域の資源を活用し暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。	地域の祭への参加や隣接する施設の行事への参加や作品展見学、法人の納涼祭参加など、範囲は狭いが地域の資源を活用し暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは24時間連絡が取れる環境にあり、適切な医療が受けられる。専門医への受診については、家族の希望で受診先を決めている。	かかりつけ医とは24時間連絡が取れる環境にあり、適切な医療が受けられる。専門医への受診については、家族の希望で受診先を決めている。	入居者のほとんどが、元々から協力医が主治医である。他科受診の際は、家族と連携して通院の支援を行っている。通院結果は、協力医に報告し連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での情報については、午前・午後の申し送りで共有し、必要に応じ、かかりつけの看護師や医師に報告相談を行い、受診に繋げている。	日々の関わりの中での情報については、午前・午後の申し送りで共有し、必要に応じ、かかりつけの看護師や医師に報告相談を行い、受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医とは連携を密にとれる状態であり、状態把握や家族への連絡等は連携できている。他の医療機関ともかかりつけ医を通じて連携とありあっている。	かかりつけ医とは連携を密にとれる状態であり、状態把握や家族への連絡等は連携できている。他の医療機関ともかかりつけ医を通じて連携とありあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「もしも」についての事業所の取り組み、医療機関との連携について伝え医師の診断・説明により、家族や本人の思いに沿ったケアを目指している。	契約時に「もしも」についての事業所の取り組み、医療機関との連携について伝え医師の診断・説明により、家族や本人の思いに沿ったケアを目指している。	重度化した場合の看取りについては、契約時説明を行っている。実際の場合は、協力医と連携し、家族の意向を聞きながら、見守りを行う体制が整っている。職員は、勉強会などでターミナルについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で、医師による勉強会に参加し、急変時やAEDの使用方法について学ぶ機会がある。	法人内で、医師による勉強会に参加し、急変時やAEDの使用方法について学ぶ機会がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防立会いの訓練の他に自主訓練を不定期ではあるが実施している。訓練は運営会議等に実施し、地域の方や家族に取り組みについて知らせている。地域の協力を得る体制づくりはあるが実行できていない。	年に2回消防立会いの訓練の他に自主訓練を不定期ではあるが実施している。訓練は運営会議等に実施し、地域の方や家族に取り組みについて知らせている。地域の協力を得る体制づくりはあるが実行できていない。	年二回消防署の立ち合いの訓練を行っている。他に、自主訓練や夜間想定訓練も行っている。災害対策のマニュアルは整備されており、地域の協力態勢作りも整ってきている。	

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会で、声掛けの「慣れ」について振り返る機会を設けている。人格を尊重した言葉掛けは常に意識しているが、標準語では通じにくい場面も多く、方言や砕けたいい方等使い分けている	接遇の勉強会で、声掛けの「慣れ」について振り返る機会を設けている。人格を尊重した言葉掛けは常に意識しているが、標準語では通じにくい場面も多く、方言や砕けたいい方等使い分けている	勉強会で接遇について学ぶ機会を設け、一人ひとりを尊重する支援を実践している。また、個人情報も、適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に応じた自己決定の場面作りを意識しているが、働きかけられていない事もある。	本人の能力に応じた自己決定の場面作りを意識しているが、働きかけられていない事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて過ごしてもらいたいと考えているが、職員側の都合を優先している事が多い。日記にどんな一日を過ごしたいかを三択で記入し、実行する様にはしている方もいるが、全員に対しては出来ていない。	体調や気分に合わせて過ごしてもらいたいと考えているが、職員側の都合を優先している事が多い。日記にどんな一日を過ごしたいかを三択で記入し、実行する様にはしている方もいるが、全員に対しては出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れたシャンプーや化粧水を使用されその人らしい身だしなみのできる支援を心掛けている。	使い慣れたシャンプーや化粧水を使用されその人らしい身だしなみのできる支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の出来る事の工夫などで、出来る範囲での準備・片付けをしている。調理に関しては、衛生面を考慮し最小限にとどめている。メニューや食材について伝え、食への関心が持てるよう努めている。	個人の出来る事の工夫などで、出来る範囲での準備・片付けをしている。調理に関しては、衛生面を考慮し最小限にとどめている。メニューや食材について伝え、食への関心が持てるよう努めている。	食事が楽しみなものとなるよう、各県のご当地メニューなど行事食や誕生食を工夫している。入居者は、自分の出来る台拭きや皿拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取表にて、確認している。嗜好品については本人・家族より聞きとり差し入れてもらう等摂取量の維持に努め、栄養士や医師にも相談している。	摂取表にて、確認している。嗜好品については本人・家族より聞きとり差し入れてもらう等摂取量の維持に努め、栄養士や医師にも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていない。職員は個々の口腔ケアについて把握し、主に就寝前に介助や声掛けを行っている。一人で出来ている方の確認はあまり出来ていない	毎食後は出来ていない。職員は個々の口腔ケアについて把握し、主に就寝前に介助や声掛けを行っている。一人で出来ている方の確認はあまり出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いパターンを知り誘導に役立てている。昼間はオムツの使用は控え、トイレでの排泄を勧め、パット処分用のバケツを用意し処分を自分で出来たという自立へ向けた取り組みも行っている	排泄表を用いパターンを知り誘導に役立てている。昼間はオムツの使用は控え、トイレでの排泄を勧め、パット処分用のバケツを用意し処分を自分で出来たという自立へ向けた取り組みも行っている	排泄表から一人ひとりのパターンを把握し、昼間は、トイレへの誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方には特に水分や適度な運動、腹部マッサージ等働きかけている。乳製品等家族の協力で摂取される方もある。医師へ相談し内服にて調整されている方もある。	便秘がちの方には特に水分や適度な運動、腹部マッサージ等働きかけている。乳製品等家族の協力で摂取される方もある。医師へ相談し内服にて調整されている方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、面会や外出・体調に就対応できている。個人のタイミングに全て合わせる事は出来ていないが、入浴を楽しみ、安全に入れるよう椅子の位置を統一し不安なく入れるような取り組みもしている。	曜日は決めているが、面会や外出・体調に就対応できている。個人のタイミングに全て合わせる事は出来ていないが、入浴を楽しみ、安全に入れるよう椅子の位置を統一し不安なく入れるような取り組みもしている。	入浴の曜日は決まっているが、個々の状態に合わせて行っている。支援の方法を統一し、入浴を楽しみながら、安全に入る取り組みを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や健康状態に応じて休息や安眠が出来る様心がけている。食事の席は決めてはいるが、その時々で落ち着く場所で摂取や休息できるように柔軟な対応を心掛け安心できるように支援している	個々の体力や健康状態に応じて休息や安眠が出来る様心がけている。食事の席は決めてはいるが、その時々で落ち着く場所で摂取や休息できるように柔軟な対応を心掛け安心できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、お薬ノートや情報提供書を基に確認し、全てではないが主に飲まれている内容について理解し、個々に就内服の支援行っている。内服後の様子について気になる事は、医師に相談出来ている。	薬については、お薬ノートや情報提供書を基に確認し、全てではないが主に飲まれている内容について理解し、個々に就内服の支援行っている。内服後の様子について気になる事は、医師に相談出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に就じた役割を持ち日々過ごせるように努めている。歌や塗り絵、散歩等可能な範囲での対応を心掛けしている。	個々に就じた役割を持ち日々過ごせるように努めている。歌や塗り絵、散歩等可能な範囲での対応を心掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に就って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望には添えていないのが現状である。敷地内の散歩等で季節の移り変わりを感じたり外部の方とのふれあいで気分転換を図られている。家族の協力で外出出来ている方もある。	一人一人の希望には添えていないのが現状である。敷地内の散歩等で季節の移り変わりを感じたり外部の方とのふれあいで気分転換を図られている。家族の協力で外出出来ている方もある。	敷地内の散歩や、夜のイルミネーション見学、外食など、定期的ではないが、家族と協力し、要望があれば随時外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方もあるが、使う機会はほとんどない。家族に所持金の把握や紛失については理解を求めている。支払いの機会がある時は、自身で出せる様な支援を心掛けている。	所持されている方もあるが、使う機会はほとんどない。家族に所持金の把握や紛失については理解を求めている。支払いの機会がある時は、自身で出せる様な支援を心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らかけられることはないが、希望時には番号を確認する等し、取りついたり代理したりできている。手紙やFAXにて交流の支援できている	自らかけられることはないが、希望時には番号を確認する等し、取りついたり代理したりできている。手紙やFAXにて交流の支援できている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において配慮はしているが難しい面もある。(日ざし等)季節に応じた掲示物や中庭の花壇等で季節を感じ、居心地良く過ごせるよう努めている。	共用空間において配慮はしているが難しい面もある。(日ざし等)季節に応じた掲示物や中庭の花壇等で季節を感じ、居心地良く過ごせるよう努めている。	共有部分は清潔に保たれ、食堂は、東に大きな窓を配置し、中庭の四季折々の木や花を楽しむことができる。天窓からは明るい日差しが差し込み、温度や湿度も管理され、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の活動は、気の合う仲間や作業活動に応じて過ごせるよう配慮し、思い思いの場所で休息できるよう支援している。廊下のベンチでは、散歩の途中の休息や交流の場となっている。	食事以外の活動は、気の合う仲間や作業活動に応じて過ごせるよう配慮し、思い思いの場所で休息できるよう支援している。廊下のベンチでは、散歩の途中の休息や交流の場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に家具やアルバム等馴染みの物の持ち込みについて伝えている。配置も家族、本人の意向に配慮し決めている。生活をして都合の悪い時は、理由を説明し変更を理解を求めている。	契約時に家具やアルバム等馴染みの物の持ち込みについて伝えている。配置も家族、本人の意向に配慮し決めている。生活をして都合の悪い時は、理由を説明し変更を理解を求めている。	居室には、仏壇やソファなど馴染みのものを持ち込み、家具は、本人の状態に合わせて配置し、居心地よく過ごせる工夫をしている。入居者の希望に合わせて、畳の部屋も設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や、排便確認のお知らせ等個人の「分かる事・出来る事」を活かした貼り紙等で自立した生活や出来る喜びを感じ暮らせる様配慮している。	トイレの表示や、排便確認のお知らせ等個人の「分かる事・出来る事」を活かした貼り紙等で自立した生活や出来る喜びを感じ暮らせる様配慮している。		